あおぞら

Vol. 75
2022.7月号

Denenchofu Central Hospital Free Paper

TOPICS：大腸がんと検診のすすめ

大腸がんは、日本全国で1年間に約15万8000人が診断されます。やや男性に多い傾向にあり、30代前半から増加して、高齢になるほど多くなります。男性では胃がん、前立腺がんに次いで3番目、女性では乳がんに次いで2番目に多いがんです。何らかの症状がある場合は受診したり、定期的な検診を行うことをおすすめいたします。

大腸がん（結腸がん・直腸がん）とは

大腸がんは、大腸（結腸・直腸）に発生するがんで、腺種という良性のポリープががん化して発生するものと、正常な粘膜から直接発生するものがあります。

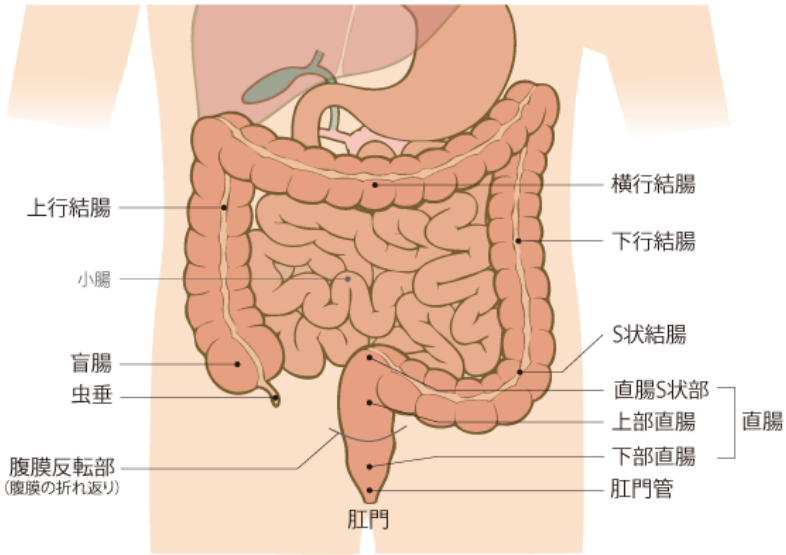
日本人ではS状結腸と直腸にがんができやすいといわれています。大腸の粘膜に発生した大腸がんは次第に大腸の壁に深く侵入し、やがて大腸の壁の外まで広がり腹腔内に散らばったり、あるいは、大腸の壁の中のリンパ液や血液の流れに乗って、リンパ節や肝臓、肺など別の臓器に転移したりします。

大腸がん（結腸がん・直腸がん）の症状

早期の段階では自覚症状はほとんどなく、進行すると症状が出ることが多くなります。症状としては、血便（便に血が混じる）、下血（腸からの出血により赤または赤黒い便が出る、便の表面に血液が付着する）、下痢と便秘の繰り返し、便が細い、便が残る感じ、お腹が張る、腹痛、貧血、体重減少などがあります。

最も頻度が高い血便、下血は痔などの良性の病気でもみられるため、そのままにしておくとがんが進行してから見つかることがあります。大腸がんの早期発見のために、消化器科、胃腸科、肛門科などを受診することが大切です。

がんが進行すると、慢性的な出血による貧血や、腸が狭くなる（狭窄する）ことによる便秘や下痢、おなかが張るなどの症状がでることがあります。さらに進行すると腸閉塞となり、便は出なくなり、腹痛、嘔吐などの症状が出ます。大腸がんの転移が、肺や肝臓の腫瘤として先に発見されることもあります。



大腸がんについて

【関連する疾患】

大腸の病気には、遺伝性の病気である家族性大腸腺種症やリンチ症候群、炎症性の病気である潰瘍性大腸炎やクローン病などがあります。これらの病気がある人は、大腸がんが発生しやすい傾向にあります。

【検査方法】

大腸がんの疑いがある場合は、大腸がんのスクリーニングとして用いられる便潜血反応検査を行い、陽性であれば大腸内視鏡検査を実施し確定診断を行います。がんのある部位や広がりを調べるためには、注腸造影検査やCT検査、MRI検査などを行います。

- **便潜血検査**　大腸がんのスクリーニングとして用いられます。便に含まれる血液を検査する方法で、これが陽性であれば、大腸内視鏡検査などの精密検査を行います。ただし、陰性であってもポリープなどが見つかることもあります。
- **直腸指診**　肛門から指を挿入し直腸内の腫瘍の有無や便の変化などを確認します。
- **注腸造影検査**　肛門から造影剤を注入し大腸の形や腫瘤の有無などを検査します。
- **大腸内視鏡検査**　肛門から内視鏡を挿入し検査を行います。直接見ることもでき、同時に細胞を採取し病理診断が行えます。また、良性ポリープや小さな早期がんの切除も可能です。
- **腫瘍マーカー**　正常の細胞からは産生されないが、がん細胞から産生される物質を血液検査で測定します。一般的にがんがあると値が上昇しますが、がんがあっても上昇しない場合や、がんがなくても上昇することもあります。通常は、手術後の再発チェックや薬物療法の効果判定の補助に用います。

【病期（ステージ）について】

病期は、深達度、リンパ節転移・遠隔転移の有無によって決まります。（表1）

表1 大腸がんの病期

0期	がんが粘膜内にとどまる
I期	がんが固有筋層にとどまる
II期	がんが固有筋層の外まで浸潤している
III期	リンパ節転移がある
IV期	血行性転移（肝転移、肺転移）または腹膜播種がある

出典：大腸癌研究会編「患者さんのための大腸癌治療ガイドライン2014年版」

【治療の選択】

0期～Ⅲ期では、主にがんを切除できるかどうかを判断し、切除できる場合には内視鏡治療または手術を行います。切除できない場合には、薬物療法を中心とした治療を行います。Ⅳ期の場合は、治療方法を総合的に判断します。がんの深さが粘膜および粘膜下層にとどまるものを「早期がん」粘膜下層より深いものを「進行がん」といいます。

0　期　： 内視鏡的切除、外科的切除

Ⅰ～Ⅲ期： 外科的切除

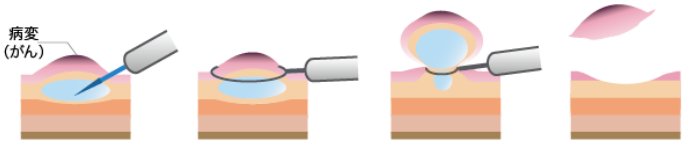
Ⅳ　期　： 外科的切除、化学療法、放射線療法

【治療方法の種類】

- **大腸内視鏡検査**

内視鏡を使って、大腸の内側からがんを切除する方法です。早期がんの多くはこの治療で根治できます。治療の適応は、粘膜下層への広がりが軽度（1㎜）までにとどまっているがんです。がんが粘膜下層へ1㎜以上広がっている場合には、外科的な腸切除が追加で必要となることがあります。

内視鏡的粘膜切除術（EMR）



① 病変の下の粘膜下層へ生理食塩水などを注入し、がんを浮きあがらせます。

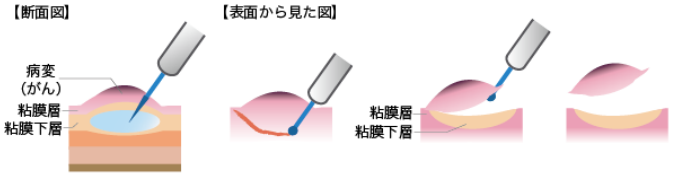
② 浮きあがった部分の根元にスネアと呼ばれる輪状のワイヤーを掛けます。

③ ワイヤーを少しずつしっかりと絞めて、高周波電流を用いて切除します。

④ 切除終了後は出血や切除した状態を観察します。

病変に茎がなく、盛り上がりがなだらかな場合は、スネアが掛けにくいため、病変の下に生理食塩水などを注入してから、病変の周囲の正常な粘膜を含めて切り取ります。

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）



① 病変の下の粘膜下層へ生理食塩水やヒアルロン酸ナトリウムなどを注入し、がんを浮きあがらせます。

② 高周波ナイフを用いて、病変周囲の粘膜を少しずつ切開します。

③ 病変のまわりを全周にわたって切開し、粘膜下層から病変をはがします。

④ 切開終了後は出血や切除した状態を観察します。

主にEMRで切除が困難な大きな病変に対しての治療法です。がんを浮き上がらせるために、病変の粘膜下層に生理食塩水やヒアルロン酸ナトリウムなどを注入してから、病変の周りや下を電気メスで徐々に切開し、はぎ取る方法です。EMRに比較すると、治療に時間がかかります。また、出血や穿孔などのリスクも少し高くなります。

- **外科的手術治療**

腸管の切除とともにリンパ節の切除を行います。がんの場所により切除範囲は様々です。肛門近くの直腸がんでは人工肛門が必要になることもあります。手術の種類は、開腹手術や低侵襲である腹腔鏡下手術があります。

- **化学療法（抗がん剤治療）**

化学療法には手術後再発予防のための投与と、手術で切除できない場合に、がんの増加を抑えるための投与があります。

- **放射線療法**

直腸がんの一部に対しては、腫瘍の縮小を目的に行うこともあります。また、がん再発や転移に対して放射線照射を行う場合もあります。

早期の大腸がんは自覚症状がないことが多いですが、血便、腹痛、便の性状や回数が変化したなどの症状がある場合は、必ず医療機関を受診してください。また、定期的な検診は、症状がない人が対象で、ターゲットとする病気を発見するために行われるものなので、早期発見に是非お役立てください。

【大田区大腸がん検診】ほかの検診も行っております。気になる方は検診担当者までお問合せください。

開始日：2022年7月1日～2023年2月中旬

対象者：大田区に住民票登録がある40歳以上の方（昭和58年3月31日以前に生まれた方）

出典：国立研究開発法人国立がん研究センター「大腸がん（結腸がん・直腸がん）について」 https://ganjoho.jp/public/cancer/colon/about.html

令和4年度　大田区がん検診等のご案内

今年度も当院では大田区の検診を実施いたします。
大田区より、40歳以上の方にはがん検診等の検診案内を郵送しております。
検診の内容により、対象年齢･実施期間が異なりますのでご注意ください。
がん検診は大田区に住民票がある方が対象です。
大田区に住民票がない方、検診案内通知が届いた時点で住民票があっても、受診日に転出されている方は受診できません。
受診券を紛失してしまった場合は、大田区へご連絡いただき、再発行手続きをお願いいたします。

【受診券を紛失したとき】
大田区健康づくり課
03-5744-1265

がん検診等のご案内
田園調布中央病院
ホームページ

検診の種類	対象	実施期間
胃がん検診【要予約】（エックス線検査）	40歳以上（昭和58年3月31日以前に生まれた方）	7月1日～２月中旬
胃がん検診【要予約】（内視鏡検査）	50歳以上（昭和48年3月31日以前に生まれた方）	7月1日～２月中旬
肺がん検診【要予約】	40歳以上（昭和58年3月31日以前に生まれた方）	7月1日～２月中旬
大腸がん検診	40歳以上（昭和58年3月31日以前に生まれた方）	7月1日～２月中旬
乳がん検診【要予約】	40歳以上の女性（昭和58年3月31日以前に生まれた方）	7月1日～２月中旬
39歳以下基本健康診査	18歳～39歳（昭和58年4月1日～平成17年3月31日生まれの方）	7月1日～12月末
特定健康診査	40歳以上（昭和58年3月31日以前に生まれた方）	６月1日～３月末
前立腺がん検診	60歳･65歳･70歳の男性	６月1日～３月末
Ｂ型･Ｃ型肝炎ウイルス検診	40歳以上（昭和58年3月31日以前に生まれた方）で令和3年度まで肝炎ウイルス検診を受けていない方	６月1日～３月末
認知症検診【要予約】	70歳･75歳	7月1日～2月末
眼科（緑内障等）検診【要予約】	40歳･45歳･50歳･55歳･60歳･65歳･70歳	７月1日～12月

あおぞら　田園調布中央病院 広報誌あおぞら〈2022年7月号〉　発行　医療法人社団七仁会　田園調布中央病院
〒145-0071 東京都大田区田園調布2-43-1 http://denenchofu-hp.jp/
TEL.03-3721-7121（代表）FAX.03-3722-6435